

世界のオーガニック情報を発信

Muso JOURNAL

オーガニックネットワークを世界に広げよう

vol.5 Jan. 2013

年始のご挨拶

2013年が幕を開けました。

新年明けましておめでとうございます。



昨年より、オーガニックの事を皆様に知っていただきつかけになればと発刊しました「MUSO JOURNAL」も発行して一年が経過しました。本年も引き続きご愛読の程宜しくお願い申し上げます。

年頭にあたり2012年を振り返ると、2011年から続くなでしこジャパンの大活躍に幕を開け、生涯一度見られればラッキーという金環日食年にあたり、史上最多のメダルを獲得したロンドンオリンピックに国民が湧いた反面、欧州危機を発端に、長引く円高や経済の低迷、尖閣領土問題を発端とした日中問題勃発、未解決の放射能、エネルギー問題など、様々な課題を残したニュースがありました。

そのなかであまり報道されてはいませんが、2012年は世界の人口が過去最高に達した事をご存知でしょうか?国連人口基金が発表する「世界人口白書」によると2012年10月31日、世界人口は70億人を突破したと発表がありました。FAO(国連食糧農業機構)は、この人口の急速な増加により、世界的に食糧、水、エネルギー資源の確保が深刻な問題化するという見方を発表しています。現在、世界の飢餓人口は10億人弱と世界人口の7分の1に及んでおり、飽食の時代を経験しているのは、我々日本を含めた2割の先進国に過ぎない状況です。

その一方で、穀物1トンで7人を養う事ができるという消費カロリー計算によると、世界穀物総生産量22億トンあれば約130億人が養えるという説もあります。例えば、牛肉1kgの生産に穀物11kgが必要とし、肉食過剰になると、穀物需要は急速に加速する事を意味しています。

ところで、皆様は「マクロビオティック」という言葉をお聞きになった事があるでしょうか?この食糧需給問題を解決する事に一役買えるライフスタイル、それがマクロビオティックです。マクロビオティックとは、穀物や野菜、海藻などを中心とする日本の伝統食をベースにした食事を摂ることにより、自然と調和をとりながら、健康的なライフスタイルを実現する考え方です。すべての肉食を排除する極端な食生活ではなく、先進国の我々が穀物や野菜を主体とするライフスタイルを選択する事で世界の食糧需給の形を変えていくかも知れません。

「MUSO JOURNAL」では、「オーガニック」をテーマに情報を記載しているのでオーガニックの情報ばかりと思われるかもしれません、弊社は、創業より、「マクロビオティック」「オーガニック」「自然食品」「伝統食品」に関わる食品開発、販売を行っています。本年度からは、オーガニック以外のトピックにも視野を広げ情報をお伝えしたいと考えております。

本年もスタッフ一同宜しくお願い申し上げます。

株式会社むそう商事 取締役 岡田泰典



雪の中でも元気に花を咲かせ、新春を祝う福寿草

世界のオーガニック事情

今後のオーガニックムーブメントに期待

「タイ王国」



昨年10月、むそ商事はマクロビオティックの普及に努める正食協会、タイでオーガニック推進活動に取り組むレモンファーム社との共同企画で、タイ・カオヤイでマクロビオティックワークショップを開催いたしました。今回は同行したスタッフからタイのオーガニック情報についてレポートです。



世界の台所・タイランド

仏教徒が人口の95%を占め、敬虔な仏教徒が多いタイでは、ベジタリアンがとても多いだけあり、タイのベジタリアン料理のクオリティーは、驚嘆の域に達しています。特にオーガニックとは掲げていてなくとも、無農薬無化学肥料を大前提とした、ベジタリアンレストランが多く存在します。

タイには世界各国の様々な食文化が持ち込まれている一方、タイ政府が推進する「世界の台所」計画の下に、農業・食品産業の拡大、タイレストランの海外進出など、様々な面で国家のバックアップがあります。また、近年では、農産物輸出大国として、農作物の付加価値を高めるとともに、国民の健康を改善・維持していくという両面から、タイ政府がオーガニックを導入し、推奨しています。政府だけでなく、国民の敬愛が厚いタイ王室もオーガニック推進に熱心で、ロイヤルプロジェクトによる有機認証もあります。一般の小売店でも、海外輸出向けとして生産された海外オーガニック認証付き商品が何気なく並んでいたりします。最近では日本でも、若者を中心にトレンドとなりつつあるタイ・エスニック料理。近いうちに、タイのオーガニック調味料や製品が日本に上陸するのではないかでしょうか。



地域を支え、
オーガニック
ムーブメント
を牽引する
「レモンファーム」社

とある田舎で、決して裕福ではありませんが、農業を営み、幸せに日々生活していた家族がいました。しかし、時代の流れの中、都市部へと農作物を出荷するようになると、都市部購買者からの「更に低価格で高品質な農作物」という要望により、畑に農薬を散布し始めました。その後、生活は決して楽になる事は無く、購買者からの要求は増すばかりです。更に、次々と家族が体調を崩し始めました。家族の大切な畑に散布し続けた農薬への疑念が湧き始め、以前の自然な農業の営みに戻りたいと思つた頃には既に遅く、気が付けば購買者に言われるままの状態となっていました。

このような話は、タイでは珍しい話ではないそうです。そして、同様の境遇に立つ多くの貧しい人達を、どうにかして助けてあげられないかという思いから、オーガニック＆マクロビオティック専門店レモンファーム社は活動を開始されました。生産者には自尊心と当たり前の自然な生活を、消費者には安心・安全な食品を、オーガニックという附加価値をもって、有機農業を促進すると同時に、それら有機農業に携わる人々が作る農作物の販売先を確保する事により、彼らの生活を助ける事ができ、ひいては、地域および社会全体を改善し、より良いものにする事が出来るという考えです。



明るい接客で迎えてくれる
レモンファームのショップ店長さん

現在、バンコク都内に10店舗(来年頭には更に新店舗)を展開しています。店内には契約農家から仕入れた新鮮な有機野菜や果物、鮮やかに彩られた自社ブランド商品、数々のオーガニックコスメ、衣服や雑貨まで、様々なオーガニック商品が並べられています。100%オーガニックを目指し、加工食品に関しては、可能なところから随時オーガニック化して行くという気概が店舗からは感じられます。